

伝統の継承 雪と火のまつり

二月八日(土)に行われた歳時記の祭典「雪と火のまつり」では、男子はサイの神、女子は団子さしと、二手に分かれて伝統行事に携わらせていただきました。サイの神つくりでは、御神木を切り出すところから、団子さしでは、団子をまるめるところから、地域の方々に教えていただき取り組みました。地域に伝わる行事を、一つ一つ覚え、自分たちの代で、そしてまたその次の代へと継承してほしいと思います。



美術木工制作・生活工芸館
美術科の授業での木工作品の制作を、生活工芸館で行いました。3年生は箱を、1年生と2年生は鍋敷きを、三島の桐を材料として制作しました。高価な桐材を賢沢に使い、技術指導をしていただきながらの授業は、三島の子どもにしか味わえない体験です。



今月の1枚



昼休みのヒップホップダンス教室
1月27日(月)~2月3日(月) 計4回

三島中学生による 三島町次世代の議会



この度、三島町教育委員会及び三島町議会事務局より、本校生徒に対して、貴重な学習の機会をいただきました。昨年四月に、三島中学校に赴任した当初、私は「町にATMのあるコンビニがなかったが、子どもたちはそうではありませんでした。町の良さである、自然とその景観は、損ないたくない。伝統文化を含め、町の良さをもっと多くの人に知ってもらい、町を訪れてほしい。町を元気にしたい。そんな願いを持ち、真剣に考えていました。これまで、町のいろいろな方々に支えられて育ってきた子どもたちには

故郷への愛着や誇りが、すでに培われていることを感じました。それ以来、学校では、近未来をイメージするSociety5.0についての学習や、景観を損なわない建設技術についての職業講話など、折に触れて、子どもたちの将来につながる学習を取り入れてきました。それだけでなく、防災教育や放射線教育、健康安全教育など、最新の災害等を踏まえた、最新の内容を盛り込んだ教育に努めています。また、修学旅行や遠足、職場体験など、他の地域に赴いた際には、その場所で学べることを、そして、自分の地域に生かせることを意識し、世界的な視野に立って物事を考えるよう取り組んでいます。

こうした学習を経て、子どもたちから出されたのが今回の4つの質問、提言となります。詳しくは、「広報みしま」や「みしまテレビ」に掲載、放映いただいております。これからも、地域と共有する学校として、地域の皆様にお世話になりながら、支えていただきながら、中学生として町を盛り上げ、貢献できる活動に取り組みたいと考えております。

地域と共にある学校

【教育目標】
心豊かな生徒
自ら学ぶ生徒
たくましい生徒

桐の里だより

令和2年2月号
三島町立三島中学校
校長 関根宏房
ホームページURL
<https://mishima.fcs.ed.jp/>三島中学校



これまで、伝統行事をはじめ、学校における諸活動において、地域の方々のお世話になり、支えられて子どもたちは成長してきました。町の次の世代を担う大人に成長するためには、まだまだ学ぶことがたくさんあります。今回のように、実際に町の行政に携わる方々と接する体験は、本物に触れたことによる、大きな成果を得るものと考えます。特に、自分の住む地域の課題について考えることは、社会に対する当事者意識が芽生え、自己肯定感の醸成や志の育成に加え、価値観の多様化する中にあることも迷うことなく主体的に生き抜く力が身につくものと考えます。